

2020年メモリアルデー特別集会のための標語

わたしたちは、地上での神の行動の指標としての世界情勢と、キリストの昇天からこの時代の終わりまでの世界史のビジョンを見る必要があります。わたしたちはまた主と共に働いて、主の回復の真理を流布して主の再来のための備えとし、「時のしるし」を見分けてうまずたゆまず祈る必要があります。

神の御座が全宇宙の神の行政の中心であるという霊的ビジョンを、わたしたちは見る必要があります。また、主権ある神は、あらゆる人とあらゆる事を支配しているとき、神が求めているものを、神の心の願いにしたがって、また神の永遠のエコノミーにしたがって完成する全き能力を持っていることを、わたしたちは認識する必要があります。

今日、バイタルになる道は、神の召しに答えて彼の勝利者、すなわち彼の時代の手段となって、時代を転換させることです。勝利者はバイタルな人です。バイタルな人（生き生きとしていて活動している人）とは、祈る人です。

小羊の婚姻は、神の新約エコノミーの完成の結果です。神の新約エコノミーは、キリストの法理的な贖いを通して、彼の神聖な命における有機的な救いによって、キリストのために花嫁、すなわち召会を獲得することです。主の回復は、すべての勝利者から成る花嫁を準備するためです。

2020年5月22日—25日
メモリアルデー特別集会アウトライン

主題：

世界情勢と主の回復に関する時機を得た言葉

メッセージ 1

地上での神の行動の指標としての世界情勢、
キリストの昇天からこの時代の終わりまでの世界史のビジョン、
主の再来を備えるために主の回復の真理を流布すること、
「時のしるし」を見分けてうまずたゆまず祈ること

聖書：使徒 5:31. 17:26-27. ダニエル 2:31-45. 啓 6:1-8. 4:1-2. 1:10-11.
コロサイ 4:2. マタイ 24:3-14, 32-34

- I. わたしたちは霊の中にいる必要があります。それは、わたしたちが地上で神の心を持つ人になることができるためです。そのような人には天が開かれていて、この世の運命に関する神のビジョンを見ることができます——啓 1:10. 4:1-2. 参照、創 28:12-17. エゼキエル 1:1. マタイ 3:16. 使徒 7:56。
- II. 世界情勢は、地上での神の行動の指標です——使徒 5:31. 17:26-27. ダニエル 2:31-45：
- A. 人類歴史のすべての主要な出来事は、神によって、彼の地上での行動のために案配され、符合してきました。神は地上で目的を持っており、人類をもって達成するので、神は確かに主権ある権威を持っており、人類歴史における状況を管理しています。例えば、主の回復の開展のために、また主の回復の最終段階（からだを建造して花嫁の用意を整える）のために、神は主権をもってアメリカ合衆国を準備し、守り、祝福してきました——使徒 17:26. 5:31. ローマ 12:4-5. 啓 19:7。
- B. 世界情勢全体はその「陣痛」と共に、イスラエルの再建を完成するため、また宇宙的な新しい人の完全な出産を完成するためにあります——マタイ 24:32-34. マルコ 13:8. ダニエル 12:1-2. 啓 12:1-2, 5。
- C. ダニエル書第2章の大きな人の像のビジョンは、「終わりの日々に起こること」（28節）のビジョンです。それは予言であり、主が彼のエコノミーを完成するために、主権によって人の統治の歴史を案配するということを説明しています（31-35節）：
1. 金の頭は（36-38節）、第7章3節から4節の第一の獣に相当し、バビロンの建国者また王であるネブカデネザルを表徴します。
 2. 銀の胸と両腕は（2:39前半）、第7章5節の第二の獣に相当し、メド・ペルシャを表徴します。

3. 青銅の腹とももは (2:39 後半)、第 7 章 6 節の第三の獣に相当し、マケドニアを含むギリシャを表徴します。
 4. 鉄のすねと、一部が鉄、一部が粘土である足は (2:33)、第 7 章 7 節から 8 節の第四の獣に相当し、ローマ帝国とその最後の十人の王を表徴します (2:40-44 前半. 7:7-11, 19-26. 啓 17:7-13)。
 5. ローマ帝国の形態と外観は消失しましたが、ローマ帝国の文化、精神、本質は今日も存続し続けています。大患難の初めに (マタイ 24:21)、ローマ帝国の形態と外観は、反キリストの下で回復されるでしょう (ダニエル 7:12)。
- D. ダニエル書第 2 章の大きな人の像の十本の足の指によって予表される十人の王と彼らの王国は、復興されたローマ帝国の最後のカイザルである反キリストの下で、共に結び付きます。このすべてはヨーロッパで起こるでしょう——啓 17:10-14 :
1. 今日、不法の奥義が諸国民の間と人類社会で働いています。この不法は、反キリストである不法の者において頂点に達します——Ⅱテサロニケ 2:3-10。
 2. 反キリストはサタンの力、サタンの具体化となります。彼は神の民 (神を畏れるユダヤ人とキリストを信じるクリスチャンの両方) を迫害し、破壊します——ダニエル 8:24. 啓 12:17. 13:7。
 3. 反キリストは神の宮と神の都を破壊し、荒廃させます。彼は真理を地に投げ捨てます——ダニエル 9:27. 8:12。
 4. 反キリストは事を理解する鋭敏な洞察力を持ち、いと高き方に逆らう事を語ります——7:8, 20, 25。
 5. 反キリストはいと高き方の聖徒たちを疲れさせます。わたしたちは、サタンが徐々に、繰り返し、頻繁に、日ごとに疲れさせる策略に抵抗し、反対しなければなりません——25 節. マタイ 24:12. 士 16:16. エペソ 6:11-13。
 6. 終わりの時代に、サタンと反キリストは、彼らの活動のための手段となる人の魂を求めています——啓 18:11-13. Ⅱテモテ 3:5. 参照、ゼカリヤ 12:1。
- E. キリストと彼の勝利者たち (団体のキリスト) は、神の切り出された石として現れる時、十人の王と反キリストを打ち (啓 19:11-21)、それによって大きな像を足の指から頭まで砕きます (ダニエル 2:35)。
- F. 反キリストと人の統治の集大成を砕くことが起こる前に、主の回復はヨーロッパに拡大し、そこに根づかなければなりません。ダニエル書第 2 章の大きな人の像に関するビジョンの終極的な成就において、ヨーロッパは他のいかなる国や人種よりも決定的に重要です。大きな人の像の両足を砕く

ことは、全人類の統治を砕くことです—— 34-35 節。

- G. 団体のキリスト（キリストと勝利を得た彼の花嫁）は、来て反キリストを打ち破り、人の統治の総合計を砕いた後、大きな山となって全地を満たし、全地を神の王国とします。この王国は新エルサレムにおいて究極的に完成します。それは神聖な歴史の究極的に完成された段階です——啓 20:4, 6. 21:10。

III. 小羊・神によって開かれた初めの四つの封印は、キリストの昇天からこの時代の終わりまでの世界史のビジョンを、わたしたちに与えています（参照、啓 4:1-2. 5:1-14）。この四つの封印がわたしたちに見せているのは、彼の昇天の後（マルコ 16:19-20）、直ちに四頭の馬の競走があり、召会の時代全体を通して、キリストの再来まで継続しているということです：

- A. 第一の封印は白い馬とその騎手から成っており、福音の拡大を表徴します——啓 6:1-2：

1. 矢のない弓が表徴するのは、平和の福音を構成するためのキリストの戦いが終わり、勝利が得られているということです。冠が表徴するのは、福音がキリストの栄光を冠として与えられたということです——Ⅱコリント 4:4。
2. 「出て行って勝利を得た」が表徴するのは、福音がキリストと共に出て行って、あらゆる種類の反対と攻撃を征服しているということです——啓 6:2。
3. キリストの栄光の福音を宣べ伝える勝利者は、白い馬の騎手になります——エペソ 3:8-11. ローマ 1:1. 啓 19:11, 13-14。

- B. 第二の封印は赤い馬とその騎手から成っており、戦争が拡大することを表徴します—— 6:3-4：

1. 「赤」は血が流れることを表徴し、「大きな剣」は戦いのための武器を表徴します。
2. 「地上から平和を奪い取り」は、戦争が地上で継続していることを表徴します。「人々が互いに殺し合う」は、人々が互いに戦うことを表徴します—— 4 節. マタイ 24:7。

- C. 第三の封印は黒い馬とその騎手から成っており、飢きんの蔓延を表徴します——啓 6:5-6：

1. 秤、すなわち貴重な物の重さを量るのに用いられる天秤は、ここで食物の重さを量るのに用いられ、食物の欠乏を表徴します。小麦一コイニクスは、一日の労働の良い報酬であり、大麦三コイニクスも、一日の労働の良い報酬であり（マタイ 20:2）、食物が欠乏してその価格が高いことを表徴します。
2. 「油とぶどう酒を損なうな」（油とぶどう酒は、人の喜びのためであり

——詩 104:15 ——飢きんのとき常に欠乏し、貴重なものになります)は、飢きんがあることを表徴します。

D. 第四の封印は青白い馬とその騎手から成っており、死が拡散することを表徴します——啓 6:7-8 :

1. 「青白い」は、災害で打たれた者の顔色を表徴します。ハデス [陰府] が死に従うことは、死が殺した者たちを、ハデス [陰府] が収容し、拘留することを表徴します。

2. 地の四分の一に対して剣、飢きん、死をもって、また地の獣によって殺す権威が、死とハデス [陰府] に与えられます——参照、9-11 節、ルカ 18:1-2, 7-8。

IV. 主の回復の真理を流布することは、主の再来のための備えとなって、回復と復興をイスラエルにだけでなく、全被造物にもたらしめます——マタイ 24:14.

28:19. 19:28. イザヤ 11:9. 参照、啓 5:6-8 :

A. キリストの昇天の直後、この四つのもの（福音、戦争、飢きん、死）が、四頭の馬の騎手のように走り始めました。そしてキリストが再来するまで走り続けます—— 6:1-8 :

1. 王国の福音が人の住む全地に広がり、走り、競走することは、人類歴史の内側の神聖な歴史の核心です——マタイ 24:14。

2. 王国の福音は、啓示録第 6 章 1 節から 2 節における第一の封印の白い馬で表徴され、この時代の終わりの前、すなわち大患難の時の前、すべての民に対する証しのために、全地に宣べ伝えられます。

B. わたしたちが宣べ伝えているのは部分的な福音ではなく、マタイによる福音書から啓示録までのすべてを包括する完全な福音です。それは神の永遠のエコノミーの福音であり、神の法理的な贖いを通して、彼の有機的な救いによって、ご自身をキリストの中でその霊として、彼の選ばれた人たちの中へと分与し、諸地方召会の中で彼のからだを建造し、新エルサレムを究極的に完成して彼の花嫁、彼の妻とならせ、彼に永遠の表現を得させます—— I テモテ 1:3-4. ローマ 1:1. 5:10. 啓 1:10-11. 21:2-3, 9-11. 22:1-2。

C. 実は、福音はすべての神聖な真理を含みます。新約全体は福音であり、新約は福音として旧約によって予表されています。ですから、わたしたちは、福音は聖書全体を含むと言ってよいでしょう。

D. この時代における神の唯一の目的は、福音が宣べ伝えられて、キリストのからだとしての召会が建造され、新エルサレムを究極的に完成することです——エペソ 3:8-11。

E. どうか主がわたしたちに負担を与えて、福音の神聖な真理を学ばせ、主の回復のために、この真理を至る所に流布させていただきますように——イザヤ 11:9. ダニエル 11:32 後半-33. II テモテ 2:21。

- V. 現在の世界の情勢の中で、わたしたちは「時のしるし」を見分け、祈りに自分自身をささげて、うまずたゆまず祈る必要があります——使徒 6:4. コロサイ 4:2. マタイ 16:3. ルカ 21:24-36. マタイ 24:3-14, 32-34. ローマ 13:11-14 :
- A. わたしたちは、わたしたちが「陣痛」のただ中にいること(マタイ 24:8, 32-34)、「神の王国が近いこと」(ルカ 21:31)を認識する必要があります、それゆえに、聖書の最後の祈り——「主イエスよ、来たりませ！」(啓 22:20)を祈る必要があります。全聖書は、主の再来に対する願いが祈りとして表現されることで結んでいます(参照、雅 8:13-14. II テモテ 4:8. 使徒 26:16)。キリストの来臨は、彼の民と共なる彼の臨在(ギリシャ語、パルシーア parousia)となります(マタイ 24:3. 使徒 26:15-16. マルコ 13:8. ヨハネ 14:21, 23)。
- B. わたしたちの必要は、人類歴史に対する神の見方の十分な認識をもって祈り、そして戦争、飢きん、死によって福音が加速し、開展して極致にまで至ることを見て、わたしたちが神を最も満ち満ちた程度にまで獲得して、神の神聖なエコノミーの目標を完成する必要があるのを見ることです——ピリピ 3:8, 12-14 :
1. サタンは神に反逆した後、神によって罪定めされ、判決を受けさえしましたが、神は彼の知恵と主権において、サタンに対する神の裁きをまだ完全には執行していません。神は依然としてサタンに限られた時間を与え、サタンにある事を行なわせ、消極的な必要を満たして神のエコノミーを完成させるようにしました——ヨブ 1:6-8. 2:1-6. 参照、ヨハネ 12:31。
 2. ヨブ記がわたしたちに見せているのは、神が「醜い手段」としてのサタンを通して、二つの方法、すなわちはぎ取ることと消耗させることで、ヨブを取り壊していたということです。神のはぎ取ることと消耗させることはヨブの上で行使されて、ヨブを取り壊し、神がヨブを獲得し、ヨブが神をさらに獲得するようにしました。わたしたちの外なる人は消耗させられていきます。それは、わたしたちの内なる人が日ごとに新しくされていくためです——ピリピ 3:8-10. II コリント 4:16-18。
 3. ヨブの苦難は神の裁きではなく、神がはぎ取り、消耗させ、取り壊すことでした。それは神が根拠と道を持ち、ご自身をもってヨブを再建し、ヨブを神・人、神の新創造における新しい人とするためです—— 5:17. ガラテヤ 6:15。
 4. 神は、はぎ取ること、消耗させること、取り壊すことを通して、神を愛し、神を尋ね求める者たちの中へと、ご自身を分与します——ヨブ 10:13. エペソ 3:9. 参照、ヨハネ 3:6. ピリピ 3:3。
 5. 神が彼の聖なる民を対処する目的は、彼らがすべてにおいて空にされ、神だけを彼らの益として受け入れさせることです。神の心の願いは、わたしたちが彼を命として、命の供給として、わたしたちの存在のすべて

として、完全に獲得することです。これは新エルサレムにおいて究極的に完成します——ローマ 8:28-29。

6. ヨブ記の終わりは、ヨブが最終的に神を見たと言っています。新約の意味において、神を見ることは神を獲得することに等しいのです。神を見ることは、神・人であるキリストの栄光のかたちへと造り変えられて、わたしたちが神の命において神を表現し、神の権威において神を代行することです——ヨブ 42:5-6. II コリント 3:18。
 7. わたしたちは神を見て、神を知り、神を愛することをすればするほど、ますます自分を忌み嫌い、ますます自分を否みます——マタイ 16:24. ルカ 9:23. 14:26。
- C. 列王紀上第 8 章 48 節におけるソロモンの祈りによれば、わたしたちが常に祈る必要があるのは、聖なる地（神が信者たちに割り当てた分け前としてのキリストを予表する——申 8:7. コロサイ 1:12）に向かって、聖なる都（キリストにある神の王国を表徴する——詩 48:1-2）に向かって、聖なる宮（地上での神の家、召会を表徴する——エペソ 2:21. I テモテ 3:15）に向かってです：
1. ダニエルはエルサレムに向かって窓を開けることによって日に三度、祈りました。神は彼の忠信な祈りの経路を通して、キリストの来臨のために、神の選民に対する神のエコノミーを遂行します——ダニエル 6:10. 使徒 2:42. 6:4。
 2. 神に対するわたしたちの祈りが、神の永遠のエコノミーにおける目標としてのキリスト、神の王国、神の家に向かっていくとき、神はわたしたちの祈りを聞いてくださいます。これが意味するのは、わたしたちの祈りが常に神の権益を目標とすべきであるということ、すなわち、地上での神の権益であるキリストと召会を目標とすべきであるということです。それは神のエコノミーを完成するためです。